

いただいたコメント

身近な植物で環境変化を知ることができるものはありますか？

ESDという言葉をはじめて知りました。

実証フィールドとして横国大以外の場所でも研究対象になりますか

県内には中山間地域の課題を抱える自治体もあります。教育的視点の実証フィールドとしてそういった地域との連携も考えられるかと思います

拠点長からのフィードバック

さまざまな植物で、季節感がずれてきていることが観察できます。例えばソメイヨシノは2月1日からの積算温度が600℃に達すると開花するといわれていましたが、今年は暖冬で開花が早まるかと思いきや、積算800℃を超えても開花しませんでした。これは、桜が冬の深い休眠を経ないと開花しないのに、気温が高すぎてしっかり眠れず、寝起きが悪くなったためです（人間みたいですね）。一方で桜が咲いた4月中旬、足元の草には初夏の花が咲き始めていました。季節感が混じってしまうなんとも居心地の悪い光景でしたが、それを皆さんは気づけたでしょうか。

もう1つ。10月に、「スズメが絶滅危惧種になるかも」というニュースが流れたことをご存知でしょうか。絶滅危惧の定義は決まっていますが、それに即するとスズメの減少率が絶滅危惧種に該当するほどのスピードであることが明らかになったためです。身近にいるはずの普遍種が、いつの間にか絶滅していた…ということが、今後起きてくることが予測されます。このように、「変化」を知るなら、「変化をする前」をちゃんと知っておく必要があります。

ESDは、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育として日本が提唱した概念で、2020年度から実施されている新しい学習指導要領において掲げられています。これからは、全ての学校種において「持続可能な社会の創り手となることができる教育（ESD）」が推進される必要があります。

本拠点では、学校教育のみならず、社会教育としてのESDを推進すべく、「地球規模の課題を自分事化する」ような教材開発、プログラム開発を目指しています。

そのためもちろん大学構内だけでなく、他の地域、特に中山間地域の課題を抱える自治体様と共同で、2050年ビジョン「自然と共生する世界」を目指す活動を広げていきたいと考えています。